

英國治罪法 西村玄道譯 上

1
2
63

東 京 圖 書 館				
二	六	四	一	
冊	三	架	函	類
	号			

十

036604-001-2

1-63

英國治罪法

ブラックストーン/著

上

M12

BBS-0017



英國ブラックストーン著
日本西村玄道譯

英國治罪法

明治十二年九月刊行

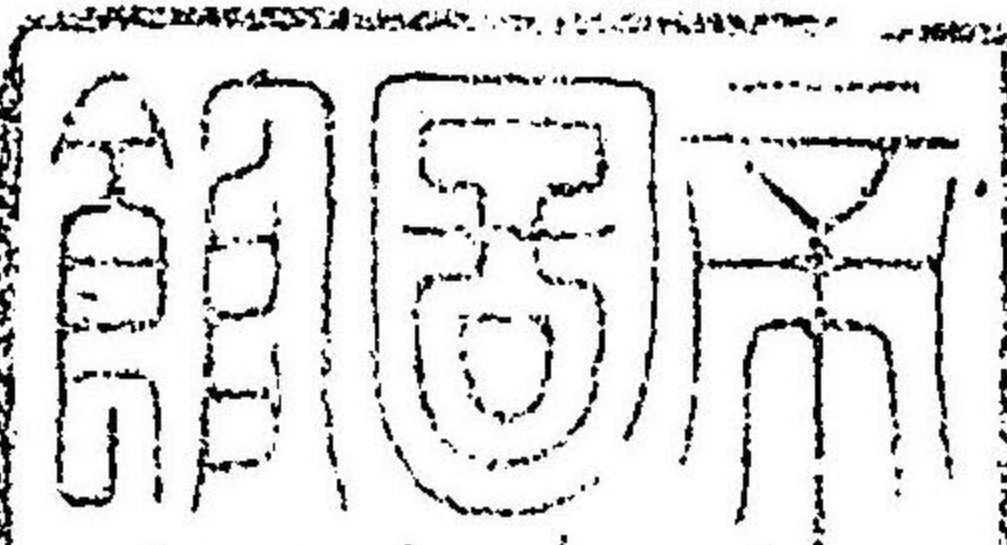
英國治罪法序

殺人則罪當于死、賊人則罪當于苦役、而後法律之用足歟、曰未也、夫殺人賊人有以杖者焉、有以刃者焉、有以人者焉、有以心者焉、罪從其所施而不同、罰豈莫深淺輕重乎、故雖國有懲罰之法、用之不得其當則非也、用之得其當者何也、曰治罪法是也、彼當于苦役者、當于死者、法之體也、酌量之深淺輕重之事實者、法之用也、體用具而法律之功全矣、我國近年講法之

英國ブルックハウス著
日本西村玄道譯

英國治罪法

明治十二年九月刊行



英國治罪法序

殺人則罪當于死、賊人則罪當于苦役、而後法律之用足歟、曰未也、夫殺人賊人有以杖者焉、有以刃者焉、有以人者焉、有以心者焉、罪從其所施而不同、罰豈莫深淺輕重乎、故雖國有懲罰之法、用之不得其當、則非也、用之得其當者何也、曰治罪法是也、彼當于苦役者、當于死者、法之體也、酌量之深淺輕重之事實者、法之用也、體用具而法律之功全矣、我國近年講法之

道開俚婦寒民知法律罰有罪赦無罪立天下之正理繩天下之邪曲之具然天下之士先講法之體而後講法之用知講法之用而出板刊行之于世世與其利者鮮矣是余所憾也頃讀貌拉克斯頓英法注釋治罪法之部其文簡而具約而無遺讀書之暇譯以公于世庶幾講法之士足採以為知運用之妙之一助矣

明治十年五月

譯者識

英國治罪法

目次

卷之上

- 第一 刑事諸裁判所
- 第二 証罪略法
- 第三 拘留
- 第四 投獄及ヒ保釋
- 第五 求刑諸法
- 第六 インダイトメントノ手順
- 第七 呼出吟味及其附出事

第八 被告答辯及陳述

卷之下

第九 吟味及ヒ口供

第十 裁判判決及附出事

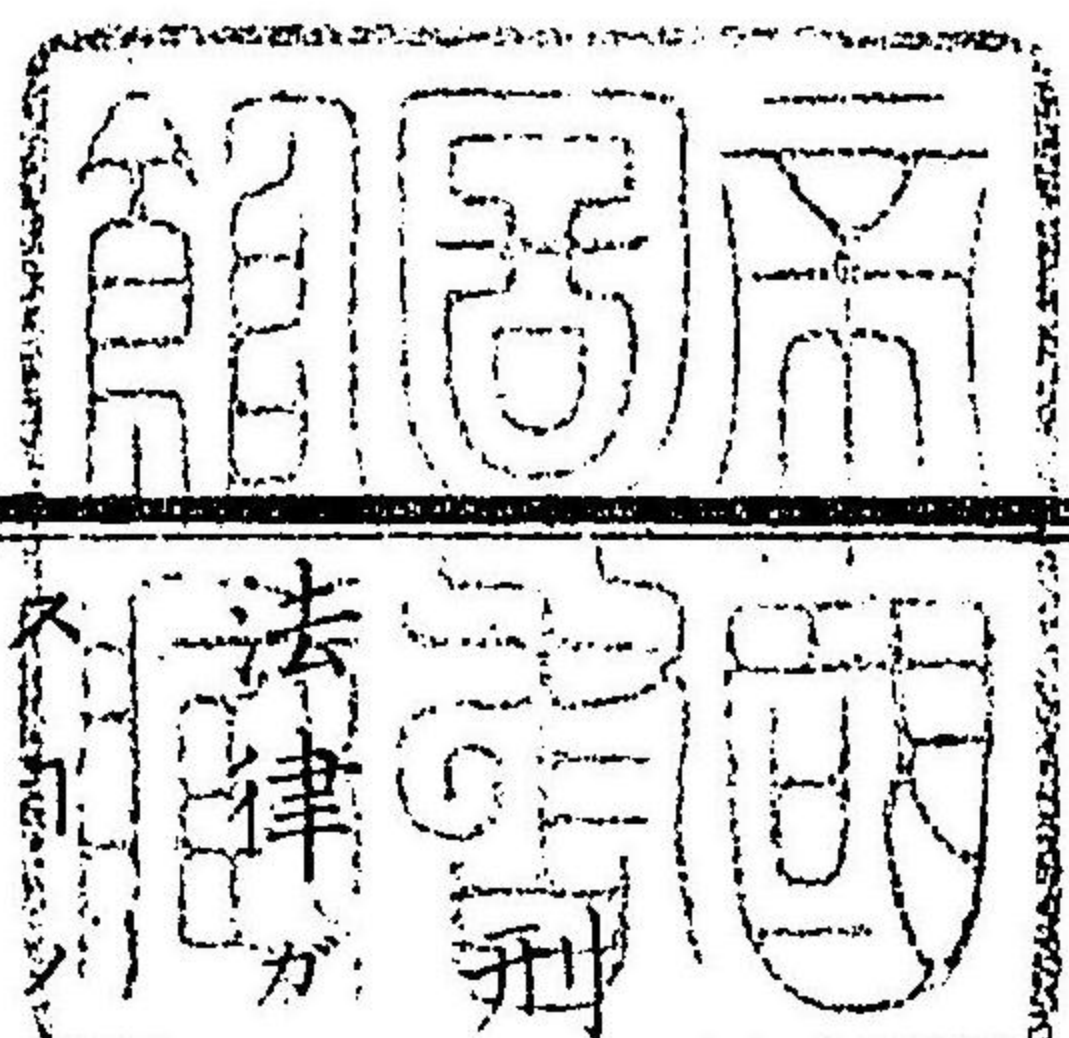
第十一 裁判判決ノ破毀裁判停止及赦典

第十二 死刑

英國治罪法卷之上

英國 ブラックストーン 著

日本 西村玄道 譯



刑事諸裁判所

法律カ格段ナル犯罪ニ配結セシ所ノ罰ヲ被ラ
スルノ方法ヲ説明スルニ就テ前篇ニ於テ説

キシ如キ民法上損害回復ト同一ノ方法ヲ茲ニ

説カン即チ第一刑事諸裁判所ヲ記スルニ第二

刑事諸裁判所ノ自然ノ順序ヲ列記スルニ第三

此諸裁判所中ニ執行スル所ノ種々ノ手順ヲ説明スルコト是ナリ

民事裁判所ニシテ刑罪ヲ受理スル裁判所ノ中或ル裁判所ハ全王國中ニ公開ニシテ且ツ一般ノ裁判權ヲ有スル者アリ又或裁判所ハ密審ニシテ且ツ特質ナル裁判權ヲ有スル者アリ而シテ此密審裁判所ハ龍動及ヒニケノ大學校ニ限ル者トス(密審公開ノニノ者下文ニ明ナリ)

民法裁判所ハ各々附屬ノ裁判所ヲ有シ上等裁判所ハ下等裁判所ノ誤謬ヲ糾正セリ然レ同一

ノ罪ヲ以テ一ケノ人ヲ二回吟味スルコトハ法律ノ精心ニ反スル者ナルガ故ニ刑事裁判所ハ民事裁判所ニ反シ各自皆獨立シタル者ト云ハル

コトヲ得故ニ少クモ刑事最下ナル裁判所ノ宣告書ハ決シテ王國內最上裁判所ト雖レ之ヲ破毀スルコトヲ得ズ但シ法律ニ誤謬アル場合ハ此限ニアラズ又往々吟味以前ナラバ一ケノ法庭ヨリ他法庭ニ其訴訟ヲ移轉スルコトアルモ又此限ニアラズ故ニ刑事ヲ受理スル諸法庭ハ各自獨立ナル者ナルガ故ニ此諸法庭ハ各自各別ニ

列序セザル可カラズ此諸法庭中最上ノ法庭ハ
第一公會法庭即チ通俗英國上院ナル者ニシテ
此上院ハ法律實行ニ就テ最上法庭ニシテ貴族
ト平民トニ関ラズ公會ノ彈劾ニ依テ大罪人ヲ
吟味スル所ノ者トス
議院ヲ裁判所トスルノ法ハ太古日爾曼人ノ法
ニ倣フタル者トス何トナレバ古ヘ日爾曼人ハ
議院ニ於テ公社ニ関シタル死罪人ヲ吟味セシ
者ナレバナリ而シテ此法ハ英國憲法ニ於テ格
段ナル法ト云フ可シ何トナレバ一般ノ法立法

官ト司法官ノ一致糾合スルコトハ忌避スベキ者
ナレト尚ホ公會ノ事務ヲ以テ委托サレタル臣
民ガ人民ノ權利ヲ破リ而シ通常裁判官ニシ
テ自ラ之ヲ罰スルヲ得ズ又之ヲ罰スル能ハザ
ル如キ罪ヲ犯スコトナキ能ハザル者ナレバナリ
此等ノ罪ニ就テ人民ノ代理人即チ下院ハ適當
ニ判事ト成ル能ハズ如何トナレバ下院總体ハ
被害者ノ一方ナレバナリ故ニ下院ハ只其罪ヲ
彈劾スルニ止マレリ然レ下院ノ此彈劾ハ如何
ナル法庭ニ於テ吟味スルヲ得ルヤ通常裁判所

ハ斯ル有力ナル犯罪者ノ權力ノ為メ制セラ
 ナキニモアラザレバ通常裁判所ニ於テハ吟
 味スル能ハザルマシ此道理アルガ故ニ人民ヲ
 代理スル立法官ノ此部分下ハ其彈劾ヲ他ノ部
 分即チ貴族ヨリ成立スル所ノ部分ニ持来ラザ
 ルベカラズ此貴族部分ハ平民部分ト同一ノ関
 係ヲ有セズ同一ノ感格ヲ有セズト考ヘラル、
 者ナリ人民ハ人民ノ為メニ正理ヲ保護スル為
 メニ求刑スルハ人民ニ取ツテ適當ナル者ナル
 ガ故ニ貴族ハ犯罪者ノ正理ヲ保護スル為メニ

判事トナルハ適當ノ者トス而シテ此法庭ノ權
 カニ伴フ所ノ他ノ非常ノ事情ノ中茲ニ一ケノ
 奇思スベキ性質ノ者アリ即チチャーレス二世
 ノ代ダンベイ侯犯罪ノ場合ニ於テ下院ガ主張
 セシ所ノ者ニシテ「アクトトオブセツトルメント
國王ノ系統ヲ定」ニ依リ英國下院ノ彈劾ヲ得タ
タル憲法ノ名ル者ニハ國璽ヲ捺シ赦典ヲ乞フヲ得ザル可
 シトノ制法是ナリ
 又上院ニ於テハ刑罪ノ場合ノ上告裁判所ノ裁
 判ニ對シタル上告ヲ受クルヲ得然レ該上告ハ

上院ニ向テ只虚名ノ上告トス而シテ此上告ハ
 司法卿及ヒ議院ノ裁判上ノ貴族ニ依テ吟味セ
 ラレ判決セラレザル可ラザル者トス此裁判上
 ノ貴族トハ通常ノ判事ニシテ必シモ貴族ヲ要
 セザル者トス

第二貴族上等法廳此法廳ハ貴族ガ謀叛罪又ハ
 重罪ヲ犯シ或ハ此等ヲ隱伏セシガ為メニ審罪
 セラル、時立ツル所ノ法廳トス若シ斯ル罪ノ
 インダイトメントニ按イニダイトメントハ下文
 ガ制為セララル、時此インダイトメントハ再審

票按再審票トハ原語セルシオレニ依テ貴族上等法廳ニ移轉セララル、者ニシテ貴族上等法廳ハ只獨リ之ヲ判決スルノ権力アル者トス斯ル場合ニ於テ國王ハ國璽ヲ捺シタル命令ニ依テ此法廳ヲ設立シ此命令中ニインダイトメントノ事ヲ記シ而シテ英國ノ法ト風習トニ依テ之ヲ受理シ之ヲ吟味セヨトノ國王ノ権力ヲ與フル者ナリ斯クインダイトメントガ移轉セララル、時特命貴族按特命貴族トハ貴族ノ犯罪ヲ吟味セントハ捕吏ニ向ヒ斯ク審罪セラレタル貴族ハ捕吏ニ向ヒ斯ク審罪セラレタル貴

族ニ陪座シ吟味スベシト諸貴族ヲ喚召スルノ命令ヲ發スル者トス以前ハ只十八人又ハ二十人ノ貴族ガ貴族中ヨリ撰出セラレテ呼出サレタリシガ其後人負不定トナリ終リニハ特命貴族ガ適當ト考フル所ノ貴族ヲ呼出ダス可キ風習トナレリ故ニクラレンドン侯ガ罪ニ墜チシ時撰出サレタル貴族ニ依テ侯ヲ吟味セシ為メニ議院ヲ延會スベキ企ガ為サレシニ貴族上等法廳ノ目的ノ為メニ上院全員ヲ呼出スルヲ得ル者ナルヤ否ヤノ疑問ヲ起シタリ然レ今ハウ

イリヤマム三世即位七年制律第三章ニ依リ議院ニ出テ發言ヲ為スノ權利ヲ有スル凡テノ貴族ハ呼出サレサルベカラズ而シテ呼出サレタル貴族ハ悉ク犯罪貴族ノ吟味ニ就テ發言スルヲ得ベシト制可セラレタリ

第三上告裁判所此裁判所ハイキスチエコール
按英國三箇ノ上等裁判所ノ判事ガ
 チヤンブル會同シテ裁判ヲ為ス者臨時裁判所
 ノ如キ廳ノ裁判權ガ悉ク此法庭ニ移轉サレシ
 者ナリ
 者ニシテ刑罪初審裁判權ヲ有セズ只クキンズベ
 ンチ廳ガ下シタル法律ノ不正法律ノ錯誤ヲ糾

正スル為ニ破毀票ヲ待ツテ裁判ヲ為スノ裁判權ヲ有スル者トス

第四上等法廳ノクインズベンチ分廳按千八百

ノ改革後英國三箇ノ上等法廳ヲ合シテ一箇ノ法廳内ニ三箇ノ法廳ヲ分置スルガ故ニ云爾

此法廳ハ局ヲ分ツテ二局トシ一ハ國王部局一ハ民法部局是ナリ國王ノ局ニ於テハ謀叛大罪ヨリ下最小ナル輕罪即チ平和ノ破毀ニ至ルマテ凡テ刑法ノ訴訟ヲ受理セリ又此分廳ニハ凡テ下等法庭ヨリノインダイトメントガ再審票ニ依テ移轉セラレ而シテインダイトメントガ

制為セラレシ所ノ州ノ陪審官ニ依テ吟味シ又ハナイサイプリユス廳按ナイサイプリユス廳

官トガ吟味スル法庭ニ持來リ吟味スル者ニ依テ吟味サル、ヲ得或ハ或ル犯罪者ノ場合ニ於テ此上等法廳ノ命令ニ依テ中心刑法裁判所按解下

ニ於テ吟味サル、ヲ得此分廳ノ判事ハ王國中最高ノ檢處官トス而シテ法律上刑事裁判權ノ重ナル法庭トス

此等三箇ノ法庭ハ按イキスチエコールクイン

三分王國內凡テノ部分ニ於テ開カル、ヲ得而

シテ此三廳ノ裁判權ハ全王國中ニ起ル所ノ凡
 テノ刑罪ヲ所分スルヲ得備テ是ヨリ記セン
 トスル法庭ハ又一般ノ性質ヲ有シ且ツ全國ニ
 散布セララル、者トス然レ其裁判權ハ地方ノ裁
 判權ニシテ格段ナル郡區ニ局在スル者トス
 オール及ヒテルミ子ル法庭按オール意味ノ意テルトハ
 子ルトハ判決ノ意此法庭ハ國王委任令中ニ吟
 味セヨトノ命令アルガ故ニ斯ク名ク
 リ及ヒ一歳二回法庭按下文ハ彼上等法庭ノ支
 廳ニシテ王國內各州ニ於テ一歳二回又ハ往々
 三回女王ノ委員ノ前ニ開カル、者トス但シ龍

動及ヒミツドルセキスハ中心刑事法庭アツテ
 各々刑法裁判權ヲ使用フルガ故ニ此限ニアラ
 ズ而シテ通常巡迴裁判ト呼ハル、法庭ニ於テ
 判事ハ五箇ノ附權ノ德ニ依テ法庭ヲ開ラケリ
 此五箇ノ附權中二箇巡迴裁判ノ委任令及ヒ此
 委任令ニ附隨スル裁判權ナルナイサイブリウ
 スノ裁判權ヲ民法上ノ性質ノ者トシ第三ハ平
 和保護ノ委任ニシテ此書第一卷ニ於テ既ニ論
 ジタリ第四ノ附權ハオール及ヒテルミ子ルノ
 委任ニシテ凡テノ謀叛罪重罪輕罪ヲ吟味シ判

決スル為メノ附權トス其委任令ノ語ハ糾審セ
 ヲ吟味セヨ判決セヨトノ語ヲ用ユル者トス故
 ニ此委任令ニ依テ委員ハ該巡廻裁判ニ於テ制
 為セラレタルインダイトメントノ後ノミ裁判
 事務ヲ所辨スルヲ得何トナレバ委員ハ小陪
 審官ノ助ニ依テ吟味シ審決セヨト附權サル、
 前ニ大陪審官按大陪審官ヲ起サミレバインダ
 イトメントハ制為サル、能ハサ
 ル者ナレヲ起シテ糾審セザル可カラザレバナ
 バナリ
 リ第五ニ此委員ハ自餘ニ尚ホ一般一歳二回裁
 判按一歳二回裁判トハ通常一年二回囚徒ヲ獄
 舎ヨリ出シ之ヲ審理シ或ハ吟味シ或ハ解放

スル者ヲ云ノ委任ヲ有セリ此委任令ハ判事ガ
 フ以下倣之ノ委任ヲ有セリ此委任令ハ判事ガ
 巡廻ノ都府ニ着スル時凡テ在獄ノ囚徒ヲ吟味
 シ解放セヨト附權スル所ノ者ナリ如何ニ審罪
 サル、トモ又犯セシ刑罪ガ如何ナル者タリト
 リスノ如クシテ獄舎ガ一般ニ掃除セラレ而シ
 テ一歳二回凡テノ囚徒ガ吟味セラレ罰セラレ
 解放セラレ而シテ人民稠密ノ地方ニ於テ一年
 三回吟味セラレ罰セラレ解放サル、者トス
 第六通常一年四回ノ法庭此法庭ハ二人又ハ二
 人以上ノ保安官ノ前ニ一季ニ一度必ス各州ニ

於テ開カザル可カラザル者トス此保安官ノ裁判權ハ凡テノ重罪及刑罰其他ノ者ヲ吟味シ判決スルヲ得但シ謀叛罪謀殺罪謗神罪或ハ宗教上ノ罪偽誓公証贋造罪放火罪ニ妻罪棄人罪生子隱伏罪讒謗罪賄賂罪夜盜火及ヒ破裂スベキ毀傷スベキ物質ヲ以テ犯シタル罪及凶惡ナル性質ノ或ル者ニ依テ犯シタル罪ハ此限ニアラズ

然レ格段ナル制律ニ依テ此ノ法庭ノ裁判權ニ適當ニ屬セシメタル許多ノ罪及ヒ格段ナル事

物アリ此罪及ヒ事物ハ此法庭ニ於テ求刑セザル可カラザル者トス例ヘバ些少ノ重罪些小ノ輕罪又ハ刑事ノ性質ヨリハ寧ロ民事ノ性質ナル者例セバ衡量ニ就テノ規則貧民分置ニ就テノ問題及ペチーセツション區裁判所ノ如キ者解次下ニ明カナリニ於テ租稅ノ事公道ニ関シタルヲ及ヒ他ノ地方ノ性質ヲ帶ヒタル事物ニ就テノ如キ者是ナリ以上ニ記シタル一二ノ場合ニ於テ原被ノ人ハ判事ノ裁判ヲ請フヲ得然レ大槩ハ上告デアレ初審願訴デアレ保安官ニ依テ處辨サル、

者トス此保安官ノ命令ハ格段ナル制律ニ依テ
 禁ゼラレシニアラザレバ大槩セルシヨレ一ラ
 イ票ニ依テ刑事上等法廳ニ移轉セラレ該上等
 法廳ニ於テ初審令ハ或ハ廢セラレ或ハ附効セ
 ラル、者トス
 此四回裁判所ノ公記ハ公記鑿護人ト名ケラレ
 タル格段ナル吏員ノ保護ニ委託サル、者トス
 此鑿護人ヲ命スル一ハ老徳リウテナント官ガ
 地方軍務長官トシテ國王ノ親書ニ依テ命セラ
 ル、ト同一ニ地方文務長官トシテ國王親書ニ

依テ命セラル、者トス而シテ警保書記官ヲ命
 ズルユトハ此鑿護人ノ權内ニ屬スル者トス而
 シテ此職ハ明了ニ金圓ニ依テ賣却スル一ヲ禁
 セラレタル者トス
 許多ノ獨立都府按獨立都府トハ原語「ゴルポレ」
 以テ一會社トナシ一府ノ人民協同シテ或ハ事
 業ヲ起シ或ハ物品ヲ買ヒ或ハ府尹ヲ撰擧スル
 等大槩中央政府ノ威ヲ借ラズシテ府中ヲ治理
 スル者ヲ云フ今適當ノ譯字ナシ假リニ獨立都
 府トニ於テ其都府疆域中ニ都府ノ保安官ノ前
 ニ開ク可キ四回裁判アリ此裁判所ハ一二ノ場
 合ノ外ハ各州ノ一般四回裁判所ト同等ノ權ヲ

有スル者トス該一二ノ場合ノ中最モ著シキ者
ハ貧民ノ移轉ニ就テ都府保安官ノ命令ニ對シ
テ上告スルコトニシテ此上告ハ必ス州ノ四回裁
判ニ依テ決セラレザル可カラザル者トス而シ
テ凡テ尤モ緊要ナル都府ニ於テ都府法庭ハ其
都府ノ裁判參議官按都府長官ニ裁判ガ長官ト
ナリ而シテ此長官ハ五年間以上バーリストル
按法律學士ノ免許ノ職ヲ務メシ人ニシテ其職
ヲ受ケタル代言人
德ニ依テ直チニ其府ノ保安官タルコトヲ得ル人
ナラザル可カラズ

獨立都府及ヒ各州ニ於テ一般ニ特質ニシテ且
ツペチーセスシヨン廳ガ開カル、者トス該法
廳ハ僅小ノ保安官之レガ裁判官トナリ近地ノ
細小ノ事務ヲ辦理スル者トス細小ノ事務トハ
例ヘ、旅宿營業ヲ為スベキ免許ヲ與フルコト免
許ヲ改正スルコト屠獸營業人遊戯場營業人ノ免
許ヲ與フルコト改正スルコト教區吏員ノ給俸及ヒ
之レニ類似ノ者ノ成算ヲ為スコト而シテ各州ハ
此等ノ目的ニ向テ一般ニ各區ニ分タル、者ナ
リ此等類似ノ者ニ就テ大ナル權力ガ有給保安

諸長官ニ與ヘラレ此長官中ノ一人ガ裁判權ヲ
 使用シ此裁判ニハ二箇ノ保安官ガ出庭マベク
 要セラル、者トス然レバチーセツシヨシ聽ニ
 於ケル凡テノ保安官ノ判決ニ對シ上告ガ一般
 ニ四回裁判ノ次回ノ法庭ニ向テ為サル、一ラ
 得但シ此場合ヲ上等法庭ガ是ハ特質ノ場合ナ
 リトノ説ヲ為セン者ハ此限ニアラズ何トナレ
 ハ斯ノ如キ説ガ為サル、時上告ハ不充分ナル
 者トシ廢セラル、者ナレバナリ

第七檢視官ノ法庭此法庭ハ公記記入ノ法庭ニ

シテ人アリ獄死スルカ暴死スル時如何ナル有
 様ニ於テ此死没ヲ為ストモ之ヲ吟味スル者ト
 ス此法庭ハ檢視官ガ只死骸吟味ヲ為ス可ク許
 サル、者トス此法庭ヲ此ニ記スルハ只刑事裁
 判所ヲ記スルノ順序ニ依テ此ニ記載スルノ
 第二刑事裁判權ノ持質ノ法庭ニ按此第二ハ始メ
 格段ナル裁判權一般ナル裁判權ト二種ニ分テ
 シガ故エニ上七箇ノ一般ノ一般裁判權ニ對シ
 見ルハ今其數甚ク少シ何トナレバ僧門ノ法庭
 ハ此目中ニ記入サル、ヲ得ザル者ニシテ僧門
 法庭ハ俗門ノ刑罪ヨリハ寧ロ罰金懺悔宗罰ヲ

以テ僧門ノ罪ヲ罰シ或ハ罰ノ償トシテ該法庭
 ノ官吏ニ金圓ノ若干ヲ拂ヒ凡テノ法罰ヲ償フ
 一ヲ得ル者ナレバナリ特質法庭ノ中
 第一中心刑事法庭此法庭ハ龍動及ヒミッドル
 セツクス及ヒ近傍ノ諸州ノ或ル部分ニ於テ犯
 シタル謀叛罪謀殺罪重罪輕罪ヲ吟味シ判決ス
 ベキ裁判權ヲ有セリ或ハ又以前ニ海上裁判所
 ノ裁判權内ニアリシ所ノ海上ニ於テ犯シタル
 凡テノ罪ヲ吟味シ判決スベキ權力ヲ有セリ
 第二二箇ノ大學校ノチャンセロル廳 按カムブ
 リツジ、オ

キスフオールドノ 此法庭ハ謀叛罪或ハ折傷罪ヨ
 ニ箇ノ大學校 以下ノ刑罪輕罪ヲ吟味スル一ヲ得此等謀叛
 罪重罪ノ吟味ハ他ノ法庭即チ大學校上等法庭
 ニ依テ吟味スベキ者トシ殘サル、ナリ此故ニ
 イングイトメントガ巡廻裁判又ハ自餘ノ場所
 ニ於テ大學校ノ諸生又ハ其他特許アル人ニ對
 シテ制為サル、時司法大輔ガ其イ^グイ^スグ^イト^メ
 ントヲ受理スベク要求スル一ヲ得然ル時其イ
 ングイトメントガ大學上等法庭ニ於テ吟味サ
 ル、ナリ然レ^イグ^イグ^イト^メトハ最初ニ大陪

審官ニ依テ制為セラレ而ル後要求セザル可カ
 ラス如何トナレバ大學上等法廳ハ初審ノ吟味
 ヲ為ス能ハザル者ニシテ只其犯罪者ヲ説諭シ
 犯罪ヲ判決スルノミノ者ナレバナリ若シ犯罪
 ガ些少ノ輕罪ナル者ニシテ其裁判ガ受理サル
 、時チヤンセロル廳ニ於テ通常ノ判事ニ依テ
 吟味サル、者トス然レ若シ其犯罪謀叛罪ナル
 カ重罪ナルカ折傷罪ナル時該犯罪ヲ吟味セヨ
 トノ國王ヨリ特命アルヲ待チ大學上等法廳ニ
 於テ判決セラル、ナリ若シ犯罪者ヲ有罪ナリト

檢出ニ裁判ヲ實決セザル可カラザル必須アラ
 バ郡長ハ學校法庭ノ宣告書ヲ實行セザル可カ
 ラズ之ヲ實行スル為ニ郡長ハ年々ニ誓詞ヲ
 執ラザル可カラザルノ法タリ

証罪略法

刑法裁判權ヲ有スル法庭ノ手順ヲ分ツテ二ト
 ス一ハ畧法一ハ正法是ナリ畧法ハ簡約ニ記取
 スルヲ得レ正法ハ之ニ超過シタル許多
 ノ吟味ヲ要セリ
 畧法手順ハ英國公會ノ許多ノ制律ニ依テ命セ

ラル、所ノ者ヲ的指セリ何トナレハ犯罪者ノ
 証罪及ヒ或ル懲罰ヲ加フルトハ此等ノ制律ニ
 依テ制為サル、者ナレバナリ此畧法証罪ノ手
 順ハ陪審官ノ關涉ヲ要セズシテ其犯罪者ハ制
 律ニ依テ指令セラレタル法官ノミノ投票ニ依
 テ赦サレ又ハ罪セラル、者ナリ
 第一此畧法ノ性質ニ就テハ凡テ内地需用物税
 及ヒ其他政府歳入ニ關シタル各種ノ税法ニ反
 シタル犯罪及ヒ詐欺、吟味アリ此犯罪詐欺ハ
 英國各個部局ノ委員ニ依テ審理セラレ又ハ審

決セラレ或ハ保安官ニ依テ審理セラレ審決セ
 ラル、者ニシテ此保安官ハ凡テ國王ノ獨意ヲ
 以テ命セラレ又ハ廢黜セララル、者トス
 第二畧法手順ノ他、一枝項ハ許多ノ順序ナキ
 犯罪例セハ傷害、毆鬪、偽誓、醉狂、乞乞、及ヒ其他
 者ノ如キ犯罪ニ向テ英國議院ノ制法ニ依テ發
 令セラレタル種々ノ罰金及ヒ身体上ノ罰ヲ保
 安官ノ前ニ於テ施ス所ノ手順是ナリ
 凡テ此等ノ犯罪ノ場合ニ於テ何人タリトモ罰
 セラル可キ所ノ罪ヲ犯セシト、告訴ガ保安官

ノ前ニナサル、時或ハ或ル命令ヲ發スヘキ權
 カヲ有スル所ノ保安官ニ向テ願訴サル、時喚
 召令ガ發セララル、者トス此喚召令ハ必ズ其指
 示セラレタル人ニ向テ發スル者ナリ此令ヲ發
 スル時其職ヲ奉スル所ノ警察官又ハ其他此令
 ヲ實行スベキ職ヲ奉スル所ノ人萬一アラバ其
 職ヲ實行センガ為メニ此令ト共ニ隨行スル者
 トス若シ喚召セラレタル人隱伏シテ現ハレサ
 ル時此犯罪者ヲ拘引センガ為メニ拘捕票ヲ發
 スルコトヲ得又告訴サレ而シテ適當ナル證據ニ

依テ確認セラレタル場合ニ於テ拘捕票ハ始メ
 テ發セラル、ヲ得而シテ此拘捕票ハ此票ヲ發
 セシ郡ニアラザル他ノ郡ニ於テモ實行スルコ
 ヲ得ベキ者ニテ該他郡ノ保安官ガ裏書セシ後
 此犯罪者ハ拘捕セラレ而シテ保安官ノ前ニ拘
 引セラレ此保安官トハ喚召令ヲ發スルノ權ヲ
 有シ而シテ之ヲ吟味スル時告訴人願訴人及ヒ
 被告人(時ノ場合ニ從フテ)ヲ召ヒ立証スベシト
 要迫スベキ權ヲ有スル者ナリ然ル後告訴又ハ
 願訴ハ法律上一般ノ手順ニ從ヒ其保安官ニ依

テ審理セラレ審決セラレザル可カラサル者ト
ス而シテ願訴人ハ己レノ願訴スル所以ヲ顯証
シ被告人ハ之レニ對シテ己レノ答辨ヲ為シ而
シテ若シ場合ガ要スルアラバ願訴人ハ之レニ
再答辨ヲ為シテ之レガ証據ヲ吟味スル者ナリ
此畧法手順ノ取扱ハル、場所ハ公開ノ法庭ナ
リ故ニ此畧法吟味ニハ國人皆自由ニ臨場スル
ヲ許サル、ナリ
以上ハ保安官ノ前ニ於ケル畧法手順ノ一般ナ
ル者ナリ然レモ許多ノ場合ニ於テ保安官ハ罪

ヲ構造シ罰ヲ施ス所ノ格別ナル制定法ニシテ
其制定法ハ一般ニ犯罪者ヲ証罪セシムル所ノ
方法ヲ記示スル所ノ制定法ニ從ハザル可カラ
ザル者アリ否ザレバ其犯罪ハ通常ノ規則中ニ
落ツ可キ犯罪トナリ只陪審証罪ニ依テノミ決
行セラレ或ハ英國慣習律ニ從テ告訴ニ依テノ
ミ決行セラル、トヲ得ベキ者トス
例セバ少年犯罪人之ヲ詳言セバ其齡十六年未
滿ノ者ニ就テ保安官ハ若シ其罪法律上單簡ナ
ル騙欺ト見認ル時此場合ニ當リ畧法ヲ以テ証

罪セシムルヲ得而シテ三ヶ月以内ノ宣告令ヲ與ハ或ハ三磅以内ノ科金ヲ命スルヲ為ス若シ保安官此犯罪人ニ向テ或ル懲罰ヲ被スヲ以テ不利益ノ者ト思考スル時其犯罪ノ証アル者スラモ保安官ハ之ヲ廢止スベキ權ヲ有ス而シテ又一方ニ在テ此犯罪人ハ畧法ヲ以テ處理セラハ、一ヲ拒ミ陪審官ニ依テ吟味ヲ受ニ為ノニ遣送セラレン一ヲ主張スルヲ得又自餘ノ或ル場合ニ於テ保安官ハ犯罪者ノ承容ノ上畧法ヲ以テ罪責ヲ審理シ審決スルヲ

得而シテ苦役ト共ニ三ヶ月禁獄ノ宣告令ヲ發スル一ヲ得又他ノ場合ニ於テ若シ犯罪者其罪責ヲ自白スル時保安官ハ六ヶ月以内ノ禁獄ヲ命スル一ヲ得而モ不屈ナル罪人ハ各種ノ場合ニ於テ其犯罪ニ比較スレバ輕淺ナル懲罰ヲ以テ罪ヲ逃ガル、一ノ機會ヲ必ス會得マル者ナルガ故ニ若シ犯罪者其吟味ヲ受クル時昔日ニ重罪ヲ犯シテ証罪セラレシ一ノ發覺スルアラハ保安官ハ畧法手順ヲ以テ此場合ヲ處理スベキ裁判權ヲ有セズ必スヤ之ヲ陪審吟味ノ法庭

ニ遣送セサル可カラザル者タルノ成規ナリ
 第三此畧法手順ノ項中ニ終古ヨリ慣用シタル
 拘引法ニ依テ法令侮慢罪ヲ罰スルノ方法及ヒ
 拘引後ノ手順ヲ記スルヲ得
 法庭侮慢罪ニシテ斯ク罰セラル、者ニ二アリ
 一ハ直犯侮慢ニシテ公然法庭ノ権力ヲ侮蔑シ
 権力ニ抵抗シ或ハ法庭ニ座スル所ノ法官ノ身
 体ヲ侮慢シ之レニ抵抗スル所ノ直犯ニシテ其
 二ハ間犯侮慢ナリ間犯侮慢トハ直犯ノ如ク無
 儀又ハ直接ノ反對ナシト雖モ分明ニ法庭ノ権

カヲ侮視スルニ傾斜スル所ノ者トス一般ニ拘
 留法ニ依テ罰スヘキ所ノ重大ナル箇條ハ大槩
 左ノ如シ第一下等法庭ノ法官及ヒ保安官ガ犯
 シタル侮慢罪例セハセルシオレ一ライセル
 ライトハチヤンセリ一法廳又ハキンクスメン
 チ法廳ヨリ下等裁判所ノ法官ガ處理スル所ノ
 訴訟事件ヲ確實ナラシメンガ為メニ其証記ヲ
 上等法官ニ送附スベシト命スル所ノ法令ナリ
 今其譯字又ハ同類ノ禁令ヲ以テ其訴訟ヲ止メ
 フ知ラス又ハ廢移セラル、ノ後尚ホ其訴訟ヲ取扱フ者
 ノ如キ是ナリ第二郡長郡長代理獄舎吏及ヒ自
 餘法庭ノ吏員ガ犯セシ所ノ侮慢罪例セバ法律

ノ手順ヲ害用シ抑制ノ行為ヲ以テ原被相方ヲ欺妄シ或ハ己ガ義務ニ就キ有害ナル怠慢ノ如キ者第三法庭ノ吏負ナル^ルソリシト^ルル^ル（訴訟事務ノ下事調^ル吏^ス）カ犯シタル罪例セバ訴訟人ニ對シ詐欺又ハ賄賂又ハ不正或ハ他ノ不正ノ取扱ノ如キ者第四陪審者ガ己ノ職務上ニ犯シタル罪例セバ陪審者喚召サル、時出庭スル^ルヲ欠キ或ハ法庭ニ誓詞スル^ルヲ拒ミ或ハ之レニ類似ノ他ノ破行ニレテ虚妄誤謬ノ陪審判決ヲ與フル如キ只裁判上性格ノ上ニ働ク者ノミニアラズ第

五証人ガ犯セシ罪例セバ喚召セラル、時出庭スル^ルヲ欠キ己レガ證據ニ向テ誓フ^ルヲ拒ミ或ハ其證據ヲ吟味セラル、^ルヲ拒ミ或ハ虚欺ノ證據ヲ為スガ如キ者第六訴訟ニ就テ原被ニ依テ犯シタル罪例セバ法庭ノ命令ニ従ハズ或ハ判決ニ服従セザル如キ者第七其他ノ人ニ依テ犯シタル罪例セバ法庭中ニ於テ無儀ニシテ且ツ侮慢ナル舉動ヲ為シ女王ノ指令ニ柔順セズ法庭ノ命令及ヒ手順ニ順ハズ或ハ侮慢ノ語ヲ以テ法庭ニ言語シ侮慢ヲ以テ法庭ノ^ルヲ記

シ或ハ法官ノ裁判上ノ性格ノ行為ニ就テ侮言
慢記スルヲ或ハ尚ホ審理中ノ訴訟ニ就テ法庭
ノ禁止アルニモ關セズ虚妄ノ説(實説スラモ)ヲ
刊行スル類是ナリ
以上ノ侮慢罪及ヒ之レニ類似ノ侮慢罪ニ就テ
拘引ノ手順ハ其来ルヲ必ス法律ト其古キヲ同
フスルナル可シ何トナレバ不柔順及ヒ侮慢罪
アル時法律ノ調理ヲ鞏固ニスベキ充分ナル權
力ナクシテハ法律ハ無益ニ皈スレバナリ故ニ
斯ル侮慢ヲ制壓(壓)犯者ヲ直ニ拘引スルヲ依テ

スルノ勢力ハ法庭設立ノ第一主義ヨリ結果シ
而シテ法庭毎ニ須臾モ離ル可カラザル者トス

拘留

刑法裁判權ヲ有スル法庭ニ於ケル手順ノ正法
ハ十箇ノ別項ノ下ニ分タル、一ヲ得即チ第一
拘留第二投獄及ヒ保釋第三求刑第四喚召令第
五呼出吟味及ヒ其偶出事第六答辯及訴點ノ陳
述第七陪審吟味及証罪第八裁判判決及其附隨
事第九判決ニ向テ破毀及判決ノ停止或ハ赦典
第十死刑

拘留トハ指名セラレ又ハ疑ハレタル刑罪ニ答
 フル為メニ其指名セラレタル人カ現出スル為
 メニ其人ヲ拘捕シ又ハ拘留スルヲ是ナリ而シ
 テ拘留ハ左ノ四項ニ依テ施行セラル、ヲ得第
 一拘捕票ニ依テノ拘留第二拘捕票ナキ吏負ニ
 依テノ拘留第三又拘捕票ナキ私民ニ依テノ拘
 捕第四犯罪者追捕ノ喚呼ヒエドク是ナリ
 第一拘捕票ハ非常ノ場合ニ當リ樞密負又ハ國
 務卿ニ依テ許サル、ヲ得然レ通常ノ場合ニ於
 テハ保安官ニ依テ許サル、者トス保安官ハ此

票ヲ發スルヤ己レノ前ニ犯罪者ヲ現出セシム
 ルヲ要迫スル為メニ其罪ヲ調理スベキ裁判
 權ヲ有スル場合ノミ此票ヲ發スルヲ得何レ
 ナレバ其犯罪者ヲ斯ル吟味ニ出ツ可ク從フ可
 ク要迫シ得ル權カヲ有セザル罪徒ヲ吟味スル
 ヲ得ルノ權カヲ保安官ニ與フルハ不條理ナ
 ル者ナレバナリ保安官ノ此權カハ凡テノ謀叛
 罪凡テノ重罪及ヒ平和ヲ毀傷スル者及ヒ制定
 法ニ依テ罪徒ヲ罰スベキ權カカ與ヘラレタル
 凡テノ犯罪ニマデ此權カノ疆域廣ル者トス

故ニ筆記ヲ以テスルモ誓詞ヲ以テスルモ告訴
又ハ願訴アル時保安官ハ其附罪セラレ疑ハレ
シ人ヲ拘引スベク拘捕票ヲ發シ其罪名ニ答辨
スベク而シテ法律ニ依テ取扱フ可キ為メ其附
罪セラレタル人ヲ己レノ眼前又ハ他一人又ハ
一人以上ノ保安官ノ前ニ来ラシムルヲ得又保
安官ハ己ノ獨意ヲ以テスルカ或ハ筆記又ハ誓
詞モナキ單簡ナル附罪及ヒ願訴ニ向テ始メニ
喚召令ヲ發スルヲ得而シテ其喚召令ヲ受ケ
タル人其令ニ従ハサルアラバ然ル時之レヲ拘

引セニガ為メニ拘捕票ヲ發スルヲ得
此拘捕票ハ保安官ノ手記又ハ捺印ナカハ可カ
ラズ而シテ拘捕票ヲ作ルノ時場所及拘捕スル
ノ因故ヲ記セザル可カラズ各別ニ或ル人ヲ記
スルヲナクシテ疑ハレタル凡テノ人ヲ拘捕ス
ヘキ一般ノ拘捕票ハ其票真確ナラザルガ故ニ
無効ノ者トス何トナレバ其嫌疑ノ道理ヲ判知
スルヲハ拘捕吏ニ附任スベキ者ニアラズシテ
自ラ保安長官ノ職務ナレバナリ而シテ拘捕票
中ニ各別ニ其罪ヲ記シテ凡テノ人ヲ拘捕スル

ノ拘捕票ハ違法ノ者トス何トナレバ該拘捕票ノ主點ノ在ル所ハ拘捕後ノ吟味ニ於テ決セラ
 ル可キ實即チ拘捕票ニ依テ捕ハレタル人ガ其罪實ナルカ將タ否ラサルカヲ決スベキ實ナレ
 バナリ故ニ此拘捕票タル實ニ於テハ拘捕保証ニアラズ何トナレバ此票ハ此票ニ從ツテ働ク
 所ノ捕吏ヲ正視セザレバナリ而シテ拘捕票タル者ハ適當ニ之ヲ証シ(偶々保安長官カ其權ヲ
 踰越スル時スラモ)此票ヲ決行スル所ノ捕吏ニ對シ保安官ハ之レガ万全ヲ保証スル者ナリ

拘捕票捕吏ニ下ル時捕吏ハ保安長官ガ權域ト己レノ權域カ廣ガル限ハ此票ヲ決行スベク羈束セラル者トス(イギリス刑法ノ處辨ヲ掌ルノ上等法廳以下做之ノ長官及ヒ同廳ノ他ノ法官ヨリ發シタル拘捕票ハ其權域全王國ニ廣ル者トス然レ或ル某ノ州(例セハヨーク州ノ如キ)ノ保安官ガ發スル所ノ拘捕票ハ盜賊追捕ノ場合ノ外ハ其拘捕票ガ其決行セラル前ニ他州(例セバミッドルセツクス州ノ如ク)ノ保安官ニ依テ裏書之ヲ詳言セバ記名セラレザ

ル可カラザル者トス
 拘捕票ハ日曜日又ハ其他ノ日ニ於テ發セラル
 ヲ得而シテ或ル一定シタル日ニ於テ之ヲ返
 還スルヲ要セザル者トス何トナレハ此票ハ之
 ヲ決行スルマデハ尚ホ無効ニ取セザル者ナレ
 バナリ而シテ此票ガ發セラレタル人ハ夜中又
 ハ日中又ハ日曜日ニ於テ拘捕サル、ヲ得何ト
 ナレバチヤイレス二世即位二十九年ノ制律第
 七章第六條即チ日曜日ノ拘留ヲ禁スル所、制
 律ハ謀叛人重罪人平和ノ毀傷人ヲ拘捕スル

ヲ除非スレハナリ
 拘捕票ヲ要セズ只捕吏ニ依テ拘捕スルヲ得
 ルノ條々左ノ如シ第一保安官ノ眼前ニ於テ重
 罪ヲ犯シ又ハ平和ヲ毀傷スル所ノ人ハ保安官
 躬ラ之ヲ拘捕シ或ハ他ヲシテ之ヲ拘捕セシム
 ルヲ得第二郡長第三檢屍官ハ拘捕票ヲ用ヒ
 其管理内ニ於テ重罪人ヲ拘捕スルヲ得第
 四コンスタブル官英國コンスタブル官ニ
 テ保安官類似ノ者ニシテ其都府又ハ州邑ノ平
 和ヲ保護スルハ拘捕票ヲ用ヒズシテ其現前ニ於
 ル者ナリ

テ犯シタル平和ノ毀傷人ヲ拘捕シ之ヲ保安官ニ送附スルヲ得而シテ重罪現行ノ場合ニ於テ或ハ他ニ負傷セシムル所ノ重罪ニシテ其重罪尚ホ續ク可シト考定スル時コンステイブル官ハ其犯罪者ヲ拘捕スルヲ得而シテ該拘捕ノ目的ニ向テコンステイブル官ハ恰モ拘捕票ヲ有スル時ノ如ク外戸ヲ排啓シテ之レニ入ル可ク附權セラレ而シテ重害人ヲ殺害スルモ(若之ヲ殺害スルニアラザレバ拘捕シ能ハザル場合ナラバ)妨ケナシ而シテ若シ斯ル拘捕ヲ為シ

トシ之レガ為メニ己レ殺害ニ遭フアラバ之ヲ殺害セシ罪ハ全ク謀殺罪ニ當ル第五護街吏ビートル(ヒートル)ハ公費ヲ以テ使用スル所ノ郡府ノ小吏及コンステイブル補助人ハ其職徳ニ依リ凡テノ犯罪者ヲ拘捕スルヲ得而シテ格段ニ夜中惡業ヲ為ン為メニ徘徊スル者アラバ之ヲ捕ヘ翌朝ニ至ルマテ檻護室ニ入ル、
得ルノ權アリ
私民及ヒ別シテ保安官ハ凡テ重罪現行ノ時ニ臨ム時其犯者ヲ拘捕スベク羈束セラル、者ト

ス若シ臨場者ノ怠慢ヨリシテ其犯者が逃ル、
トアラバ斯臨場者ハ科金又ハ禁獄ヲ以テ罰セ
ラル、者トス而シテ斯臨場者ハ斯ノ犯者ヲ追
捕センガ為メニ外戸ヲ排啓スルアルモ正視セ
ラル、ヲ得而シテ之ヲ殺害スルノ外ハ他ニ之
ヲ拘捕スルノ術ナキ時其犯者ヲ殺害スルモ法
ノ正視スベキ者トス(仮令ヒ斯ル拘捕ヲ為ス時
該臨場者殺害セラル、ナラバ之ヲ殺害セシ者
ハ其罪謀殺ニ當ルト雖_レ)
信ズヘキ疑ニ向テ私民ハ又斯ク疑ハレタル重

罪人及ヒ其他ノ人ヲ拘捕スル_レヲ得而_レ私民
ハ若シ其罪實ナラザレバ己レ躬_レ之レガ為メ
ニ罰ヲ受ケザル可カラズコンステ_レブル官ハ
重罪ヲ犯セシト疑察ス可キ至當ノ道理アル時
適當ナル官吏ニ依テ吟味ヲ受タル迄其疑ハレ
タル人ヲ拘捕スベク附權セラル、者トス然_レ
一私民カ或ル人ヲ拘留シテ己レ正視セラレン
為ノニハ只疑察スベキ至當ノ道理ヲ顯ハサ、
ル可カラザルノミナラズ尚ホ重罪ガ實地ニ犯
サレシ_レヲ證明セザル可カラサル者トス然_レ

私民ハ夜中ニ有罪ナル所業ヲ犯ス者アルヲ見
 認ムル時或ハ有罪ナル武器ノ備ヲ為ス者アル
 ヲ見認ル時或ハ自家ノ宅地内ニ於テ家屋破毀
 ノ器具ヲ所持スル者アルヲ見認ル時或ハ其面
 ヲ塗抹セシ者アルヲ見認ル時或ハ其他假面セ
 シ者アルヲ見認ル時或ハ住家中ニ於テ其面ヲ
 塗抹シ又ハ假面スル者アル時以上此等ノ場合
 ニ當リ重罪ヲ犯ス可キ企アルアラバ之ヲ拘捕
 スルヲ得而シテ或ル財産ヲ賣ル可ク抵當ス
 可ク交付ス可ク啓言サレタル人ハ何人タリト

モ若シ其啓言サレタル財産ガ偷マレタリト疑
 フ可ク至當ノ道理ヲ有スルアラバ法律ニ從ヒ
 取扱ハレン為メニ斯ノ財産ト共ニ啓言セシ人
 ヲ拘引シ直ニ保安官前ニ遣送スベク附權サル
 者トス私民ハ只信ス可キ疑ノミヲ以テ重罪
 人又ハ他ノ疑ハレタル人ヲ拘引スル為メニ外
 戸ヲ排啓スルヲ正視セラレザル者トス而シ
 テ若シ双方ノ中孰レカ其拘捕セントスルノ間
 ニ殺害セラル、アラバ此殺害ノ罪ハ誤殺ヨリ
 重ニ至ラザル者ナリ實ニ此殺害ハ誤殺ヨリ重

ニ至ラサル可シ何トナレバ此場合ニ殺害セン
 トスルノ企謀アラザレバナリ然レ此殺害罪ハ
 誤殺ニマテ昇價ス何トナレバ若シ疑察ノ重罪
 ラ口實トシテ私民ガ他人ノ外戸ヲ排啓シ或ハ
 他人ヲ殺害スルアラバ之ヨリ甚々害悪ナル結
 果ヲ起シ而シテ亦斯ル疑察上ノ拘捕ハ法律上
 單ニ許サル、ノミニテ重罪ガ犯サル、時現前
 シタル人ノ場合ノ如ク拘捕ヲ強誘スル者ト同
 シカラザレバナリ
 尚ホ茲ニ吏負ト私民ガ關涉スル所ノ他ノ拘捕

アリ即チ重罪カ犯サル、時ノ追捕喚呼是ナリ
 「ハ佛語ノ「ヒユエル」(呼ブ)ヨリ原來シタレ
 「ハ羅甸」ヒユエテシユム、エト、クレーモル(高蹄
 ヲリ原來スル者ニシテ凡テノ重罪人及ヒ他人
 ニ痛ク負傷セシメシ者ヲ追フニ角笛及ヒ號呼
 ヲ以テスル古來慣習律ノ手順ナリ此追捕ヲ有
 効ニ運用センガ為メニ百戸組ハ若シ其組内ニ
 反シタル行為ノ重罪人ヲ拘捕セザルアラバ強
 盜ヨリシテ起リタル損害ノ場合ニ於テ其組内
 ハ總体其損害ニ答任スベク羈束セラレタリ人

アリ若シ戲ニ又ハ惡意ニ因故ナクシテ追捕ノ
喚呼ヲ為スアラバ公社ノ安全ヲ破ル者トナシ
嚴重ニ罰セララル、者トス

投獄及ヒ保釋

犯罪者拘留サル、時直ニ其陳述サレタル罪ノ
事情ヲ審理スベク羈束セラレタル保安官ノ前
ニ遣出セラル可キ者トス而シテ此審理ノ目的
ノ為メニ其附罪セラレタル人ヲ獄舎ニ投スル
ノ前又ハ該人ニ保釋ヲ許ス以前ニ保安官ノ前
ニ於テ其犯罪ノ事實ヲ知ル所ノ人ノ誓詞ニ依

テノ説明又ハ確認ヲ取ル可キ者トス是等ノ説
明ハ保安官ニ依テ記名セラレ附權セララル、時
テポシシヨレト名クル者ヲ成立スル者ナリ附
罪セラレタル人ハ其證據人ニ對シ問難スルノ
權アリ而シテ一般ニ法律上ノ助言人ヲ出スト
ラ許サル、ナリ而レ氏此事タル之ヲ許スト否
トハ保安長官ノ獨意ニ在リ何トナレバ此吟味
ガ開カル、所ノ場所ハ公開ノ法庭ニアラサレ
バナリ而シテ若シ保安官ノ目的ニ向テ此公開
ニアラザル吟味ヲ便益アル者ト見認ル時保安

長官ハ人民ノ此ニ入ルヲ禁スルヲ得
 証人ノアラザルカ又ハ他ノ原由アリテ此吟味
 ヲ遅延セザル可カラザルカ又ハ遅延スルガ便
 ナラバ保安官ハ之ヲ遅延スルヲ得而シテ附
 罪セラレタル人ハ獄舎ニ復入スルカ或ハ多分
 ハ保安長官ノ獨意ヲ以テ犯者ヲ公記ニ記入ス
 ルノ後之ヲ放解スルヲ得
 犯罪申告ニ就テ証據人ノ吟味が完全サレシ後
 テ^テポシシヨ^ン見^ユ解^ニ前^ニハ附罪サレシ人ノ前ニ於
 テ讀了セラレ而後被罪者ハ斯ク罪セラル可ク

要セラレザルノ由アル歟被罪者ガ言フ所ノ者
 ハ凡テ記録ニ記入セラレ吟味ノ時被罪者ニ逆
 フタル証據ニ向テ此記録ヲ出示スルヲ得ル
 トノ告諭ヲ為シ其附名サレタル罪ニ答辯スベ
 ク望マバ答辯セヨト命ゼラル、ナリ若以前ニ
 斯被罪者ニ或ル脅迫又ハ暴威ガ與ヘラレシ事
 實分明ナル時被罪者ハ其脅迫ニ依テ為シタル
 承約ニ就テ決シテ意ヲ注ムル勿レ其脅迫ニ依
 テ斯ノ罪ヲ犯ス可ク承容又ハ信服ヲ為セシト
 モ決シテ此脅迫ニ怖ル、勿レ其為シタル應約

又ハ脅迫アルニ係ラズ被罪者ガ言フ所ノ者ハ
 凡テ証據トナサル、ヲ得ベシトノ意ヲ判然了
 解スルヲ得ルノ告諭カ必ス與ヘラル、者ト
 ス
 然ル時其答辨ニ於テ云フ所ノ者ハ悉ク
 筆記セラレ而シテ被罪者ニ向テ之ヲ讀示シ保
 安官ニ依テ記名サル、ノ後其被罪者ガ吟味ヲ
 受クル所ノ法庭ニ之ヲ送付ス又保安官ハ被罪
 者ニ對シ己レノ為メニ証人ヲ呼ヲ望ムカ否ヲ
 問ヒ而シテ若シ証人ヲ呼ブアラバ其証人ノ説

明ハ悉ク犯罪申告ノ証據人が為セシ如キ同一
 ノ法ニ於テ之ヲ筆記セサル可カラザル者トス
 斯ノ吟味ヲ為シテ保安官ノ説若シ附罪セラレ
 タル人ヲ吟味ニ附スルニハ其証不充分ナリト
 スルアラハ被罪者ハ直ニ解放(若シ檻獄中ニア
 ラバ)サル、ヲ得否ラザルカ或ハ其與ヘラレタ
 ル証據ガ其罪ノ強ク且ツ實事ナル推測ヲ與フ
 ル時被罪人ハ獄舎ニ投セラレザル可カラズ否
 ラザレハ保釋セラレザル可カラズ即夫被罪人
 ニ對シタル罪名ニ答辨スル為メニ出庭スベク

保護セザル可カラズ故ニ此保護ハ囚人ノ安全ナル鑒護ノミノ者ナレバ大体劣等犯罪ノ場合ニ於ケル如ク保釋カ保護ノ目的ニ答フルニ足ル時必ス保釋ヲ許サル可カラズ實ニ保釋シテ可ナル人ヲ保釋スルヲ拒ミ又ハ遲延スルハ英國臣民ノ自由ニ對シテ罪ヲ犯ス者ニシテ又例外ノ保釋ヲモ被罪人ニ向テ要スルヲ得ザル者トス然レ重大ナル罪ノ性質アル者ノ保釋ハ身体ノ鑒護ト同一ナル保護ヲ施ス能ハズ只クインズベンチ廳又ハ該廳閉鎖ノ時ニ於ケ

ル法官ハ其罪人謀叛罪ナレ謀殺人ナレ或ハ其他ノ罪デアレ之ヲ保釋スルヲ得該法ニ於テ法律ノ智慮ノアル所ヲ知ル可シ蓋シ斯ル重罪ニ向テ普通一般ノ保釋ヲ為スアラバ之レガ為メ大ニ社會ノ正理ヲ避クルノ端ヲ啓クノ恐アレバナリ然レ尚ホ茲ニ獄舎ニ幽閉スルハ苛酷ニシテ且ツ不正ナル僅々ノ場合アリ(仮令ヒ其罪重大ナリト雖レ)故ニ法律ハ如何ナル場合ニ於テモ保釋可否ノ特權ヲ有スル所ノ一ケ法庭(即チクインズベンチ廳ヲ指ス)ヲ設ケタリ但

シ公會ニ依テ捕ハレ又ハ上等法廳ヲ侮慢セシ
 ガ為ノニ捕ハレタル如者ハ此限ニアラス
 若シ其罪保釋スベカラザル者ナルカ又ハ被罪
 人保釋ノ手段ヲ得ル能ハサル時其被罪人ハ獄
 舎ニ投セ^レ而シテ法律一般ノ手順ヲ經テ交
 付サル、迄ハ其獄舎中ニ留ル者トス然^レ其犯
 者保釋サル、トモ又ハ投獄サル、トモ犯者ノ
 望ニ於テ保釋セラレ投獄セラレシ所ノ^レデポシ
 シヨ^レラ其犯者ニ給與セザル可カラズ而シテ
 孰^レノ場合ニ於ケルモ犯罪申告人及ヒ証據人

或ハ犯罪申告人及ヒ被罪人ハ申告スル為メ証
 明スル為メ吟味ノ時ニ出庭スベク羈束サル、
 ラ得最初ノ申告(若シアラバ)保安官ニ依テ取^ラ
 レタル^レホシヨ^レ被罪者ガ為シタル説明書
 若シアラバ)及ヒ被罪者若シ保釋中ナラバ被罪
 者ノ記物ハ其被罪者ガ吟味ヲ受クル為メニ遣
 送サル、所ノ巡回裁判或ハ裁判期日ノ第一日
 以前又ハ第一日ニ於テ適當ノ吏員ニ之ヲ交附
 セザル可カラサル者トス

救刑ノ諸法

犯罪人ヲ罰スルコトニ就テノ次項ハ有規ノ救刑
 法トス此救刑法ニニアリ一ハ大陪審官大陪審官トハ
 十二人以上二十三人以下ノ陪審出座ヲ云フ豫メ事實ノ吟味一ハ
 斯ル豫審ヲ要セザル者是ナリ前段即チ陪審吟
 味ニ二法アリ曰クアレセントメント曰クインダ
 イトメントト是ナリインダイトメントハ大陪審
 官ニ依テ其有罪タルヲ証明
 適當ノ譯字ナシ今
 第一アレセントメントナル語ハ其包含スル所
 甚タ廣シ何トナレバアレセントメントトハ適
 當ニ其事物ヲ現示スルコトヲ云フノミナラズ尚

ホ大陪審官ニ依テ公職ノ吟味及ヒ大陪審官ノ
 インダイトメントトヲ包含スレバナリアレセン
 トメントトノ語ヲ適當ニ解説セバ大陪審官ノ前
 ニインダイトメントトヲ置クコトナクシテ只大陪
 審官が自ラ知了スル所ノ罪ノ報告ヲ云フ例セ
 バ妨害讒謗又ハ之レニ類似ノ者ヲ現示スル如
 キ是ナリ此現示ノ後インダイトメントトハ犯者
 ガ其罪ニ答辨スベク呼出サル、前ニ組成セザ
 ル可カラザル者ナリ公職ノ審檢トハ陪審官ノ
 前ニ示サレタル証據ニ依テ國王ニ關スル事件

ヲ吟味スル為メニ喚召セラレタル陪審官ノ吟
 味ヲ云フ而シテ該吟味ハ抗辯セラレ或ハ審査
 サル、ヲ得^レ今云フ所ノ審檢ノ種類ニ抗辯セラ
 如キ其審檢按之ヲ再審ノ手順ニ依テクイシ
 依テ抗辯ニ送附スルニアル者ナリ故^レ別シテ殺害
 罪ヲ犯セシ者ガ檢出サル、時檢屍官ノ屍体吟
 味ノ時ノ如キハ反辯サル、ヲ得ベシ何トナレ
 バ斯ル場合ニ於テ其附罪サレタル罪人ハ此吟
 味ノ為メ呼出サレザル可カラザル者ニシテ罪
 人ハ其罪ノ事實ヲ抗辯スルヲ得レバナリ而

シテイндаイトメントハ此吟味ヨリ制為セラ
 ル、者トス
 第二「インダイトメント」トハ大陪審官ニ與ヘラ
 レ大陪審官ニ依テ誓詞ノ上ニ顯ハサレタル刑
 罪或ハ輕罪ヲ犯シタル一人又ハ一人以上ノ証
 罪按是ナリ此証罪按ヲ為シカ為メニ其州ノ郡
 長ハ保安裁判期日又ハ「オエル」及テルミ子^ルエ
 ル及テテ謀叛罪又ハ重罪又其他ノ罪ノ審理セシム
 ルヲ委員或ハ一歳二期ノ裁判委員ノ前ニ其
 裁判開設ノ州民善良ニシテ且ツ適法ナル者ニ

十四人ヲ差遣スベク羈束セララル、者ニシテ此
 二十四人ハ法律ニ依テ要セラレタル性格ヲ具
 へ而シテ其命セラレタルノ諸事ヲ吟味シ諸事
 ヲ現示シ諸事ヲ為シ諸事ヲ決行スル所ノ者ナ
 リ陪審名簿ニ在ル人ノ全數ハ大陪審官タルノ
 誓詞ヲ取リ此大陪審官ハ少ニシテ十二人ヨリ
 減セズ大ニシテ二十三人ヨリ多カラズ而シテ
 其投票ハ十二ヲ以テ多數ノ決ヲ取ル陪審投票
多數ノ決
 式陪審全員ノ投票ニアラザレハ多數ト決セザ
 ル者アリ或三分ノ二ヲ得ザレバ多數ト決セザ
 ル者アリ今文十二ト云英倫ノ法ヲ指ス

此大陪審官ハ其中ヨリ一人ノ官長ヲ撰ビ其裁
 判所ノ裁判官或ハ裁判長ヨリ職務ニ就テ命令
 ヲ受ケ然ル後「インダイトメント」ヲ請取ル為メ
 ニ退座セリ陪審官ノ職務ハ求刑ノ為メニ其証
 據ヲ吟味スル者トス何トナレハ「インダイトメ
 ント」ヲ制為スルハ只犯罪告訴ノ性質ノミニシ
 テ尚ホ其後ニ吟味ヲ受ク可キ者ナレバナリ大
 陪審官ハ其罪ニ答辨セシムル為ニ其被罪者ヲ
 呼出ニ充分ナル原因アリヤナキヤヲ吟味スル
 ヨリ外ニ職務ナシ

大陪審官ハ其証據ヲ吟味シ其犯罪告訴按依テ
 以テ他ヲ罪スルニ足ラズトスル時ハ其「インダ
 イトメント」ノ裏面ニ「無効」ナル一句ヲ裏書シ而
 シテ後其被罪者ハ解放セラル可シ若シ陪審官
 其犯罪告訴按ニ記スル所ノ者ヲ實ナリト見認
 ムル時ハ其「インダイトメント」ノ裏面ニ「有効」ノ
 一句ヲ裏書セリ然ル時「インダイトメント」ハ基
 礎シタル者ト呼ハレ此ニ於テ被罪者ハ始メテ
 被罪者ノ位置ニ立テリ然レ此有罪按ヲ制為ス
 ルニハ少クモ十二人陪審官大陪審官ノ中ノ同意ヲ取

ラザル可カラズ如何トナレハ何人タリトモ其
 同僚及ヒ隣伍ノ二十四ノ同票即チ之ヲ詳言セ
 ハ少クモ最初ニ其犯罪告訴ニ同意スル十二人
 (大陪審官)ノ同票及其後被罪者ノ吟味ニ於テ有
 罪ナル者ト小陪審官全員ノ同票ニ依ルニアラ
 ザレバ「インダイトメント」ニ依テ証罪セラレ能
 ハザル者ナレバナリ若シ大陪審官ノ十二人が
 其犯罪告訴ニ同意スルアラバ自餘ノ陪審同意
 セズト雖レ是則チ善良ナル「プレセントメント」
 トス而シテ「インダイトメント」按ガ上文ノ如ク

ニ基礎セララル、時該按ハ公然法庭ニ交附セラ
ル、者トス
第三犯罪告訴ノ第三法ハ陪審官ノ豫審ナキ者
是ナリ此第三法ハ慣習律ニ於テ盜賊若シ其竊
盜物ヲ手中ニ所持スル間ニシテ捕ハル、時ニ
用ユル所ノ法ナリ何トナレバ盜賊斯ク現行犯
ノ間ニシテ見証サル、時「インタイトメント」ヲ
用ヒスシテ法庭ニ差遣セラレ吟味サル、ヲ得
レバナリ然レ斯ノ治罪法ハエドワルド三世ノ
世ニ廢セラレタリ故ニ現時陪審官ノ「インダ

トメント」及ヒ「プロセメント」トヲ用ヒザル
刑事訴訟法ノ一ケノ種類ハ「インフォルメーシ
ヨ」(犯罪申告)ヲ除テハ他ニアラズ
クインズベンチ廳ニ於テ刑罪ノ申告ニ二種ア
リ第一該廳ノ「代官長官」ノ職徳ニ依テ為シタル
申告第二仮令ヒ名義ハ國王ノ申告ナリト雖レ
尚私民ニ關係スル所ノ申告是ナリ此第二ノ申
告ハ國王内侍長官ニ依テ為サレ此内侍官ハ此
申告ヲ為シガ為メニ公社ニ依テ常ニ設置セラ
レタル官ナリ

代言長官職徳ニ依テノ申告ノ目的ハ適當ニ政
府ヲ混亂セシメ危殆ナラシムルニ傾斜シタル
輕罪中ノ大ナル者ヲ指ス斯ル場合ニ於テ法律
ハ國王ニクインズベンチ廳外ニ豫審ヲ乞フ待
タズンテ直ニ犯罪申告スルノ權カヲ與ヘタリ
第二申告ノ目的即チ刑法上ノ申告ハ誹謗罪ノ
如キ無禮ニシテ且ツ明了ナル輕罪是ナリ此輕
罪ハ政府ヲ混亂セシムルマデニ至ラズト雖此
此等ノ輕罪ノ惡例ヨリシテ公社ノ洵惑ヲ起ス
者ナリ此二種ノ犯罪申告成ル時其罪ノ起リタ

ル州ノ小陪審官ニ依テ必其申告ヲ吟味スベキ
者トス此吟味ヲ經テ被告即チ被罪者有罪ノ者
ト見認セラレ、時法庭ハ此犯者ニ至當ノ罰ヲ
被ラサル可カラサル者トス

刑罪申告ノ該法タル其古ク英國慣習法ト同フ
セリ何トナレハ國王ハ大陪審官ガ國王ニ向ヒ
刑法上ノ訴訟ヲ立ツルニ充分ナル道理アル
ヲ申告スル時何ノ時ニ限ラズ其犯者ヲ處刑ス
ベク或ハ否ラザルモ求刑者ニ國王ノ名ヲ貸與
スヘク羈束サル、ト同様ニ若シ國王直管ノ吏

負(即チ刑法裁判所ノ代言長官及ヒ國王ノ内侍長官ガ充分或人ガ無法ノ輕罪ヲ犯セシトテ確認セシ時該直管ノ吏負ハクインズベンチ廳ニ此申告ヲ為シ而シテ國王ノ名ヲ以テ處刑ヲ為ス可キノ自由アレバナリ然レ此直管吏負ノ申告ハ只輕罪ノ時ノミニ限局セリ何トナレバ重罪人吟味ノ時法律ハ常ニ其被罪人が其罪ニ答辨スベク喚召サル、前ニ十二ノ陪審官ノ誓詞ニ依テ其罪ガ保證サル、ヲ要スレバナリ而シテ或ル私民ノ犯罪申告ノ手順ノ壓搾ヲ使用ス

ルヲ防レガ為、ニウイリヤム及ヒマリーノ共治四年五年ノ制律第十八章ニ之ヲ制シテ曰ク第一國王ノ書記生ハクインズベンチ廳ノ命令ヲ得ルニアラザレバ刑法上ノ申告ヲ為スヲ得ザル可シ而シテ此申告ハ只有記誓詞ニ依テ基礎シタル代言人ノ願ニ依テノミ得ラル、者トス第二凡テ申告關涉人ハ只其申告ヲ實地ニ遂行スベク保證ヲ與フルノミナラズ尚ホ被罪人無罪ニ飯スル時其消費ヲ拂フ可キ保證ヲ與ヘ而シテ其申告原被對辨ノ後一年間ニ吟味サル

、ニアラザレハ如何ナル事情アルニモ關ラス
其消費ヲ拂フ可キ保証ヲ為ス可レト

「インダイトメント」ノ手順

前章ニ云フ所ハ犯罪人ガ「インダイトメント」ノ
成ル以前ニ檻獄中ニアリシヲ假定セシ者ナ
リ然レ若シ犯罪者逃脱スル欵又ハ潜伏スルカ
或ハ巡廻裁判又ハ裁判期日ニ出庭スベク羈束
セラレサルアルモ尚ホ被罪者ニ對シテ「インダ
イトメント」ガ制為サル、ヲ得如何トナレバ仮
令其被罪者ガ出庭セシト雖レ大陪審官ノ前ニ

於テ「インダイトメント」ニ向テ聴取セラレ能ハ
ザレバナリ而シテ其「インダイトメント」成ル時
法庭ニ被罪者ヲ喚召スベキ召令ガ發セラレザ
ル可カラス何トナレバ被罪者出庭スルニアラ
ザレバ「インダイトメント」ハ吟味セラレ能ハザ
レバナリ
「インダイトメント」ガ出サル、所ノ法庭ハ其被
罪者ヲ拘留スル為メニ「ベンチワラント」(刑法
裁判所)ヨリ侮慢罪又其他ノ罪人ヲ捕ヘン為メ
ノ拘捕票ヲ發スルヲ得然レ大概此拘捕ハ保

安官ニ附與セラレ而シテ此保安官ハ「インダイ
トメント」ガ制為サレシ証ヲ實見セシ後其犯者
ヲ保安官ノ前ニ拿捕シ来リ法律一般ノ手順ニ
順ヒ之ヲ取扱ン為メニ犯者ノ拘留ニ向テ其拘
捕票ヲ發スベク羈束サレシ者ニシテ之ヲ詳言
スレバ吟味ノ為メ投獄スルカ或ハ通常ノ場合
ニ於ケル如ク保釋ヲ許スカ是ナリ
若シ犯者ガ拘留セラレ能ハザル程ニ逃脫シ而
シテ犯罪申告人之ヲ法外人トシテ罪セントテ
望マハ此申告人ハ古法ノ手順ニ從ハザル可カ

ラス即チ第一出庭スベク喚召ノ性質ナル「グ
ナイル、フヘン」ア「犯者」ヲシテ来ラシメヨノ意
又止ヲ得ザレバ犯者出ツルマデハ犯者ノ財
産ヲ押取スル「依テ實行シ犯者若シ土地ヲ
所有セザレハ捕縛令ヲ發シ而シテ尚ホ場合ガ
要スルアラバ「アリ」ア「令」及ヒ「アリ」ウリスカピ
「ア」ナル第二第三令ヲ發ス「ア」リ「ア」ハ第二令
ノ第三令ノ意「ア」リ「ウ」リスカピ
「グ」ナイル「フ」エシ「ア」令財產押取令捕縛令ヲ
發シ此諸令其効ヲ得ザル後犯者ハ其法外人ト

ナルガ為メニ「イキサizen」ト之ヲ詳言スレハ
五ヶノ地方法廳ニ於テ犯者ヲ交附セシムル為
メニ徵求セラレ公告セラレ要セラル、可シ而
シテ若シ犯者五回ノ徵求令ガ發セラレ而シテ
尚ホ其踪跡ヲ露ハサ、ル時始メテ法外人トセ
ラレ法律保護ノ外ニ置ル、可シ若シ法外人ト
セラル、時犯者ハ訴訟又ハ其他ノ者ヲ起シテ
法律ノ利益ヲ取ルト能ハザル者トセラル、ナ
リ輕罪ノ為メニ「インダイトメント」ヲ受ケ之レ
ニ依テ法外ノ罰ヲ受ケタル者ハ民法上訴訟ノ

法外罪ト同一ノ者ニシテ其動産ヲ沒收セラル
可シ謀叛罪及ヒ重罪ニ向テ法外罪ハ其犯者既
ニ証罪セラレシト同一ニ其罪ヲ昇價セリ然レ
誅法外罪ハ裁判不當令ヲ以テ破毀セララル、ヲ
得之ヲ破毀スルノ手順ハ甚ク精密且ツ微細（此
手順ハ精密微細ヲ以テ至當トス）ナル者ニシテ
若シ一ヶノ最小點ト雖レ備ハラズ且ツ誤用サ
ル、アラバ法外處分ノ全局違法ノ者トナリ破
毀サル、ヲ得此破毀ニ依テ法外サレタル人ハ
答辨スルヲ得而シテ「インダイトメント」ニ逆

フテ已ヲ防グ一ヲ得ベシ
セルシオレ一ライ(解前ニ見ユ)ノ令ガ一般ニ取ラル
、一ヲ得ル一ヲ此ニ記スルハ記事ノ順序タリ
陪審吟味前ニ此令ヲ取ルヲ得者ナレ(此令ハ)
下等刑事裁判所ヨリクインズベンチ廳即チ刑
事上等法廳ニ其「インダイトメント」ヲ凡テノ手
順ト共ニ移送スルヲ云(制定法ニ依テ除去サレ
シ者ハ此限ニアラス)此セルシオレ一ライノ法
ハ第一「インダイトメント」ノ鞏固ナルマヲ一決
シ其罪ノ原由ニ從ヒ之ヲ廢シ或ハ之ヲ鞏固ナ

ラシメン為メニ為サレ第二下等法廳ニ於テ不
公平又ハ不充分ナル吟味ガ為サレシト假想サ
ル、時第三國王ノ赦典ヲ請ハン為メ第四其下
等法廳裁判權ガ其被罪者ニ達セザル州又ハ場
所ニ其犯者ヲ放出スル為メニ為サル、ナリ(セ
ルシオレ一ライノ令若シ發スル時此令ニ依テ
凡テ下等法廳ノ裁判權ヲ廢シ而シテ此法廳内
ニ於テ為タル凡テノ手順ハ一切誤謬違法ノ者
トセラル、ナリ但シクインズベンチ廳ガ其下
等法廳ニ向テ其ヲ吟味スベシ決定スベシト之

レガ記物ヲ返付セシ場合ハ此限ニアラス
 求刑法ヲ説クノ此順序ニ於テ又此ニ説ク可キ
 者アリ即チ貴族ニ對シ大陪審官ニ依テ制為サ
 レタルインダイトメントハ上院ニ依テ確認セ
 ラレ上院ニマデ送付スルカ或ハ貴族上等法廳
 貴族ノ謀叛罪及ヒ重罪ヲ吟味スル時國王貴族
 ニ命シテ之ヲ吟味セシムルノ法廳ヲ云フニマ
 テ送附セザル可カラザルト是ナリ或ハ別立裁
 判權ヲ有スル場所(ニケノ大學校ノ如キ)ニ於テ
 若シ該裁判所ガ裁判受理ヲ要言スル時此ニ其

ノ罪ヲ吟味シ決定スル為メニ校中ニ立タル法
 廳ニ向テインダイトメントヲ交附セザル可カ
 ラサルト是ナリ

呼出吟味及ヒ其附出事

犯罪者インダイトメントニ向テ自進シテ出庭
 スル欵或ハ其法庭ニ於テ其インダイトメント
 ニ答辨スベク呼出サル、時直ニ其ニ向テ吟味
 セラル可キ者トス此呼出吟味ハインダイトメ
 ントニ於テ犯者ニ向テ責メタル事實ニ答辨ス
 ル為メニ囚人ヲ呼出スヨリ他ニ要スル所ナシ

犯罪者吟味所ニ出ル時「インダイトメント」ガ精
密ニ英語ヲ以テ讀マル、者トス是其犯罪者ガ
充分ニ己レノ譴責ヲ解得スル為メ「インダイト
メント」ノ他ノ手順ハ羅甸語ニ於テ記セラル、
時スラモ「インダイトメント」ノミハ英語ヲ以テ
讀マザル可カラザルノ法タリ此吟味ノ後此犯
罪者ハ果シテ其附罪サレタル罪ナル者カ將タ
無罪ナル者カガ命ゼラル可キ者トス
斯ク吟味サル、時犯罪者ハ默立スルカ或ハ其
事實ヲ自白スルカノ二ナリ此場合ヲ呼出吟味

ノ附出事ト云或ハ否ラザレハ犯罪者ハ「インダ
イトメント」ニ向テ答辨ス其答辨ハ次下ノ章ニ
云フ所ノ者ノ如シ
第一犯罪者謀叛罪又ハ重罪ニ向テ呼出吟味ヲ
受クル時全ク答辨ヲ為サレバ法律上之ヲ默
立ノ犯者ト云フ是レ默立ノ第一種ナリ或ハ此
罪ヲ知ラズト答フルカ或ハ斯ル事實ハ法庭上
許ス可キ者ニアラズト答フルカ或ハ其他ハ默
シテ云ハザルカ之ヲ默立ノ犯者ト云フ是レ默
立ノ第二種ナリ

犯者若シ一言ヲモ云ハザルアラバ法庭ハ其職
 德ニ依テ陪審官ヲ呼ヒ該犯者ハ天生ノ聾啞ナ
 ル欵或ハ惡意ノ黙立ナルカラ吟味セシム若シ
 犯者天生ノ聾啞ナリト檢認セララル、アラバ該
 犯者ノ助言者ノ位置ニ居リ法律及ヒ正理ヲ有
 スル該法官ハ吟味ノ手順ヲ為シ此聾啞ガ無罪
 ヲ以テ自ラ答辯セシ如クニ其罪件ノ諸點ヲ吟
 味シ審査スルヲ為ス
 若シ犯者惡意ヲ以テ黙立セシト檢出セラル、
 欵或ハ直ニ「インダイトメント」ニ答辯セザルア

ラバ法庭ハ通常吟味ノ場合ニ於ケル如キ同一
 ノ方法ニ於テ無罪ナル答辯ニ進入スベキヲ
 命ゼリ〔原注〕謀叛罪、騙欺及ヒ凡テノ輕罪ノ場合
 視セラレ而シテ惡意ノ黙立ハ証罪シタル者ハ
 酷ニシテ且ツ危殆ナル宣告書ヲ命セラル之ヲ
 詳言スレハ死罪ニ處セラル、宣ラト命セラル之
 當リ答辯ハ汚穢者ハ此限ニアラス但シ其時ニ
 ラル、答辯ハ汚穢者ハ此限ニアラス但シ其時ニ
 レタリキシヨルモ亦証罪セシ者ト同視セラ
 リ重罪ニ向テ黙立モ亦証罪セシ者ト同視セラ
 レタリ而レテ制マデハ無罪ノ答辯ヲ以テ
 進入スルノ制未ク法庭ニ許サレサリキ
 第二答辯ノ一項ヲ除キ呼出吟味ノ他ノ附出事
 ハ「インダイトメント」ニ向テ犯者ノ實地ノ自白

是ナリ真純ニシテ且明了ナル自白ヲ為ス時法
 庭ハ之レニ裁判判決ヲ與フルヨリ他ニ為ス
 アラズ然レ臣民ノ生命ニ關スル死罪ニ於テ斯
 ル自白ヲ受取ルハ通常甚ク好カラザルナ
 ルガ故ニ一般ニ其自白ヲ取消シ而シテインダ
 トメントニ答辯セヨト忠告スルノ法ナリ（自白ハ恐
 クハ己ヲ害スルニ至ルアラシ故ニ只陪審官カ
 為シタルインダイトメントニ向テ答辯セヨト
 忠告スルナリ

被告答辯及陳述

囚人ノ答辯ハ第一裁判權ニ就テノ被告ノ答辯

欠

MISSING

スベケレレ¹インダイトメントニ於テノ法律ノ
某ノ點ニ向テ囚人ハ陳述ヲ為シテ曰其犯シタ
ル罪ハ如何ナル者ニアレ其説述サレタル實ハ
重罪ニ至ラザル可シト主張スル時ノ如シ故ニ
人アリ若シ家猫ヲ盗ムトニ就テ重罪上ニ審罪
サル、時囚人ハ此審罪按ニ抗辯スルト得¹反
令之ヲ盗ムトノ實ニ就テハ自白スルト雖¹重
罪トセラル、ト拒ヲ得ルナリ而シテ若抗辯
ニ於テノ法律ノ點ガ該囚人ニ逆フテ判決セラ
ル、時該囚人ハ該¹陪審判決ニ依テ証罪サレシ

如クニ其裁判判決ニ服スベシ然レ法庭ハ一般ニ法點ノ争ノ上囚人ニ逆フタル裁判判決ノ後尚ホ囚人ニ答辯スルヲ許スヲ得

第三減罪答辯ハ囚人ノ實名ヲ誤リ或ハ附号ヲ誤用スルヲ依テ起ルヲ得例セハセントルメ

附号ナルジエームス、アルレン、ガエスクアイル

ジエームス、アルレンハ余ハジエームスノ名ヲ有ト雖レ未クシヨシヨシノ名ヲ有セズト答辯スル

トヲ得而シテ又余ハセントルメノ附号ヲ有

スト雖レ未ダエスクアイルナル附号ヲ有セズト答辯スルヲ得ルガ如シ古時ハ若シ此二ケノ事實陪審官ニ依テ其誤用タルヲ檢認セララル、アラバインディングイトメントハ廢セララル、者ナリキ然レ爾後ニ至リ囚人ガ之レニ依テ利益ヲ取ルト甚少レ何トナレバ新制ノインディングイトメントガ編成セラル、トヲ得レバナリ而シテ實地上斯ル答辯ハ有ルトナシ何トナレバ今ハ法庭ガ斯ル遺漏アレハ之ヲ脩補シ得レバナリ

附罪ニ對シ良好ノ答辯ハ吟味所ニ於テ三ケノ

格段ナル答辯ノ中一ツ又ハ自餘ノ者ニ依テ為サル、トヲ得

第四格段ナル三ケノ答辯トハ囚人カ其イニダイトメントニ向テ全ク答フ可キノ道理ナキヲ陳述スル欵又ハ附罪サレタル罪ニ向テ其吟味ニ己レヲ置ク可カラザルノ道理ヲ陳述スル所ノ者ナリ此等ノ三ケノ者左ノ如シ

第一前期免罪答辯之ヲ解説セハ即チ人ハ同一ノ罪ニ向テ二回ノ危難ニ持来サレザル可シトノ法律確言ノ上ニ基礎シタル前期

免罪是ナリ故ニ人若シ一回公然無罪ト檢認セララル、時同一ノ罪ニ向テ爾後再ヒ附罪サル、アルモ其吟味所ニ於テ前ノ免罪ヲ答辯スルトヲ得

第二前期口供ノ答辯之ヲ解説セハ即チ仮令^{オレルノキアミゲイト}ヒ裁判判決カ嘗テ與ヘラレザリシト雖モ同一ノ罪ニ向テ二回ノ口供ヲ取ラル、是ナリ此ハ第一條ト同一ノ主義ノ上ニ属シ人ハ同一ノ罪ニ向テ二回ノ危難ニ持来サレザル可キノ意ナリ故ニ誤殺罪ノ口供ヲ

為シタル者ニ其後謀殺罪ノ「インダイト」ノ
 「ト」ヲ與フル「ト」ヲ得ス如何トナレバ其犯
 罪ノ度ニコソ區別ハアレ其求刑セラレタ
 ル事實ハ二者共ニ同一ナル者ナレバナリ
 此同一ノ主義ニ依リ毆鬪罪ニ向テ口供又
 ハ放免ノ証票及ヒ成文律ガ幼年犯罪者ノ
 場合ニ於テ略法裁判權ヲ保安官ニ與フル
 所ノ口供又ハ放免ノ証票及ヒ騙欺竊盜ノ
 場合ニ略法裁判ノ口供又ハ放免ノ証票ハ
 爾後ノ手順ヲ停止スル者ニシテ前期口供

前期免罪ノ答辯ノ性質ナル者ナリ

第三赦典赦典ハ被ラサレントス罰ヲ決然廢

スルトニ依テ「インダイト」メントノ目的ヲ

破壊スル者ナリ

第五附罪ニ對シ重實ナル答ハ一般ニ一般陳述

即チ無罪ノ答辯是ナリ重罪又ハ謀叛罪ノ場合

ニ答辯ノ法ニ於テ格段ナル裁判法（一）對シ見ル

可ハアル能ハザル者ナリ例セバ謀殺ニ向テノ

「インダイト」メントニ於テ何人モ己レノ防キニ

於テ此罪ハ路傍剝奪盜又ハ人家排撻盜ナリト

答辯シ能ハザル者ニシテ此附罪者ハ只無罪ナ
リト答辯(即チ一般)シ其証據ニ於テ格段ナル事
實ヲ與ヘザル可カラズ謀叛罪ノ事實ハ臣民タ
ル者忠義ノ誓詞ニ悖リタル罪ト云ハレ而シテ
重罪ニ於テハ其殺害ハ重罪ト云ハル、ガ故ニ
此悖逆罪ト重罪トハ「インダイトメント」ノ大目
的ニシテ之レニ答フルニハ直當ニ一般ノ反對
即チ無罪ヲ以テ答ヘザル可カラズ而シテ陪審
官ハ其防禦スベキ實事ノ報告ヲ取り從ツテ其
實事ガアリシ如ク或ハ格段ニ答辯セラレ能フ

1
2
63

如クニ陪審判決ヲ與フルナリ
囚人ガ斯ク無罪ヲ以テ答辯スル時法庭ノ書記
生ハ國王ノ代理トシテ該囚人ハ有罪ナリト答
フ可ク假定セラレ而シテ其有罪ヲ立証スベク
用意セシヲ答フ可ク假定セラレ之レニ依テ
國王(刑事ハ兄テ國王ノ原告ト見做スガ故ニ)ト囚人カ直チニ對審
ニ置カル、ナリ何トナレバ此囚人ノ答辯ニ於
テ囚人ハ他ノ法式ヲ用ヒズシテ吟味ノ為メニ
囚人自身ヲ國家ニ對スル者ト考ヘラル、者ナ
レバナリ

